パワー浜松ロータリークラブ週報 2014 年 3 月 11 日号

パワー浜松ロータリークラブ（2013-14 年度会長:松本好司）
〒430-7733　浜松市中区板屋町 111-2　オークラアクトシティホテル浜松 4307 号室
Tel:053-452-0800　Email:info@power-hamamatsurc.jp　http://www.power-hamamatsurc.jp
創立:2002 年 10 月 22 日　認証伝達式:2003 年 4 月 29 日　スポンサークラブ:浜松中RC

本年度テーマ:Rotary Mind、Rotary Way を確認しよう
～心で感じて・考えて・活動しよう～

第525回例会3月11日（火）AM7:30～8:30 オークラアクトシティホテル浜松4F平安の間

■司会:　土屋公良　■点鐘:松本好司
■ロータリーソング:「希望のエナジー」「夢のみずうみ」
■ゲスト:米山記念奨学生　蔡遣さん、青少年交換留学生　マリーヌさん
■議事:クラブ研修リーダー正副卓話　金山土洲会員「言の葉こぼれ話し」
小澤邦比呂会員「RC 会長を経験させていただいて、今、ロータリーに思うこと」

会長挨拶

今日は「四つのテスト」についてお話を致します。
ロータリーに入って慣れ親しんでいる「四つのテスト」ですが、先月より例会場に掲示しています。会長になり各クラブ訪問の中で、「第2例会は四つのテスト朗読をします。」というクラブ、「例会冒頭ロータリーソングで四つのテストを斉唱」というクラブもございました。来月より当クラブでもチャレンジしたいと思います。

そこで、四つのテストの中味をおさらいしてみますと、この倫理的誠実さという事が混迷している今この時代にとても大切な事かと思います。

創案者ハーバート・テーラー氏は、自社の倫理的価値観の目安としてこの文言を100文字ぐらいにまとめた様ですが、社員には分かりにくいと云う事で、彼はそれをまず7つにしてみようとしました。しかし、それでも分かりにくいと云う事で四つの自問形式（～どうか。）にしました。私生活、職業人としての生活の模範的指針として社員にこの四つを試した様です。その結果、「言行はこれに照らしてから」という、四つのテストが誕生しました。ロータリーに取入れられたのは、国際ロータリー創立50周年時、1954－55年度RI会長にテーラー氏が就任し、四つのテストの著作権を移譲したと云う事です。

我がクラブも小澤年度からオリエンテーション資料の中に「四のテスト」の由来も含め、それを要約して記されていますので是非一度目を通して下さい。

「四つのテスト」
一つ目は、真実かどうか。真実は正義なくして存在しえない。
二つ目は、みんなに公平か。公平さを取入れたビジネス。人間関係でお互いを傷つけない。
三つめは、好意と友情を深めるか。言葉通り人間の持つ本能に近い事で、お互いに助け合って生きていく存在であると云う事。
四つ目は、みんなのためになるかどうか。我々ロータリーの中で最も必要な事かと思います。食うか食われるかの無慈悲な競争を排除し、建設的で創造的な競争を導入することが原点です。

四つのテストでは、四つの完結さの中に多くの事が語られています。非常に力強く我々に訴えているものであると思います。又、未来展望を与えてくれるものと結んでいます。今後は四つのテストを活動に活かす様に、又、みなさんに慣れ親しんで頂く様な例会活動をしていきたいと思います。

幹事報告

・PETS開催　3 月 15・16 日（土・日）オークラアクトシティホテル浜松
・次年度未来夢計画アンケート:メール案内済み。回答は 18 日（火）まで。
・次回例会、3 月 18 日朝例会（IM準備例会）

委員会報告

・国際奉仕プロジェクト:3 月 19 日ミャンマーへの支援活動に出発
・ゴルフ同好会（3月 9 日青空例会報告）:14 名参加、優勝・知久会員、2位・坂井会員、3位・金山会員

新会員

田村　剛夫さん　㈱丸山コーポレーション　代表取締役

スマイル報告

小澤邦比呂
3月4日に大変嬉しい事がありました。青山幹事から還暦の食事のお誘いがあり、会場に行ってみるとそこには、中野敬司さん、小田木基行さん、村田誠さん、藤田光弘さん、安間利広さん、田渕邦彦さん、蔡遣さん、青山幹事が待っていてくれ、みんなでお祝いをして頂きました。自宅に帰り家族に話すと、「パパ良かったね」「父さん良かったね」と、家族中で祝福してくれました。本当に感激し、感謝で一杯です。ありがとうございました。

小澤邦比呂
本日は卓話の機会を頂きありがとうございました。

金山土洲会員「言の葉こぼれ話し」

3.11 にも関わらず、私の呼びかけにそれぞれの衣装を見せていただいてありがとうございます。人間は着るものが変わるだけでずいぶん変わるなと思います。私の衣装は、JBA 日本鮎友釣り協会のもので、ベストにはハリや仕掛けが入っています。

本題に入ります。3.11 ということで、思い出されるのは、「爪を切る指が十本ある」という尾崎放哉の**俳句**。そういう日がいかに大事かという話です。平凡は偉大なりということ。目立たないことにすばらしいことがある。私は60年も筆をとっている。コツコツとやっているが、ほとんど日の目にあたらない。こういう労働者がいる。昔は労働するとか、働くとか言っていたが、いまはバイト、フリーター、派遣という。これを労働と言い換えると、言葉の美学が出てくる。底辺で働く人たちを軽々しく扱う言葉が蔓延している。重みのある言葉を意識して使うべきだと思っている。

これから私たちは IM を迎える。私が会長のとき、当時は韓国ドラマが流行っていた。そのときパワーの会員はどうあるべきかという文脈で、名もない木たちが山を守るという話をした。私は IM のような機会を活かしてパワーも大きな飛躍をしてほしいと思う。何千万という雑魚はたくさん泳いでいても、絶対互いにぶつからない。そういう風に皆さんも動いてほしい。先日読んだ本に、地球を上から見ると緑がいっぱいあるが、それと同じ分の根っこが地下に埋まっている。見えないところに大切なものがある。同じ分だけの根っこが埋まっている。その根っこの部分に私たちはなりたい、そう思って IM を迎えてほしい。

パワーの歌を著名な先生がたが作ってくれたが、これを皆さんが一生懸命歌ってくれるのは嬉しいし、本当はもっともっと全国に広めて欲しい。ロータリーではそれぞれのクラブが何を歌ってもいいことになっている。パワーの 2 曲は奉仕の理想にかわる歌になる可能性になる。今度初めて合唱コンクールがある。そこでこの歌を歌ってみようという有志が出てくるのはうれしいこと。ぜひふるって参加してほしい。

小澤邦比呂会員「RC 会長を経験させていただいて、今ロータリーに思うこと」

いま建設業は振興の時期。今日はヘルメットだけだが、本来はズボンも靴も安全靴で竣工検査をやる。建設業には責任施行という言葉がある。請け負った業者が責任をもって管理をする。検査は専門機関がない。これは建設業の失態。通常は我々が受け持ったなかで竣工検査をして引き渡すのが責任としてある。いま年度末で件数が非常に多いが、我々が一番気をつけているのが、誰が施工、管理しても同じものができるということ。コンセントの高さ、蛍光管のランプのマークの位置もすべてそろえてやることです。1つの現場の社内検査で指摘事項が出ると、次の現場で同じもの出さないと考え方が品質保証になっている。

私たちは現場が営業の最前線と考えているが、現場をうまくおさめることが次の営業につながる。ロータリーの現場は何かと考えると、例会、IM、地区大会がそれだろうと。例会を満足できるものに作り込んでいるのか。たとえば昨年の新年会はどうだったか。今年はどうだったか。新年としてふさわしい例会だったか。お客様にしっかりしたおもてなしはできたのか。こういうことを含めて考えていく必要がある。

いま企業は利益追求に走っている。原発も後から後から事故が出てくる。多くの人は小さな努力で大きな成果を出すことに目を向けている。大きな努力で小さな成果を継続することが大切ではないか。例会でもこういうことができているのか。一人ひとりがやるべきことはあると思う。

夢の湖の歌の一節に「恥じない日々を生きよう」がある。私たちひとりひとりがやるべきことを指している。一人一人が自分の心のなかに落とし込む。これが作詞、作曲の山川啓介さんや福田和禾子さんへの恩返しである。帰るとき来たときよりも美しくという言葉を常に頭に入れて日々を過ごしていきたいと思います。